

十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (13)

川づくり案 9つの論点箇所現地見学会

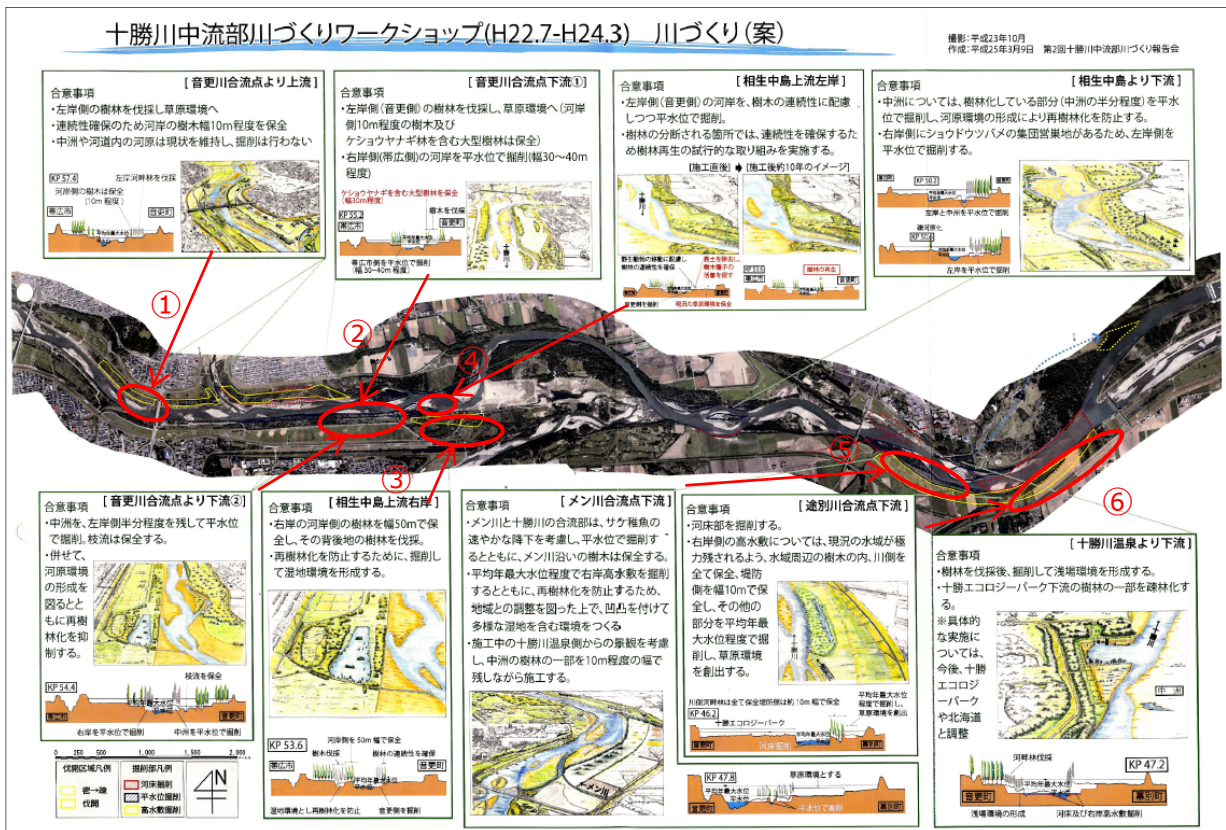
十勝川中流部市民協働会議の活動の根幹となる、十勝川中流部川づくり(案) 9つの論点箇所について現地を確認しました。9つの論点箇所は流下能力の向上を目的として、掘削や河畔林伐採の河川工事をを行い、その後、再樹林化の防止として草地環境や湿地環境の形成を図る活動を行って来た箇所です。

平成 28 年の出水の影響により、9つの論点箇所ではヤナギの実生の発生や流下能力の不足箇所等が見受けられています。

この現地見学会で参加者は、現状を共有し今後の維持管理や新たな整備等を考えながら見学しました。

- 日 時：平成 30 年 9 月 12 日 (水) PM 1:00~PM17:00
- 参加者：十勝川中流部市民協働会議事務局 11 名
帯広開発建設部帯広河川事務所 5 名
- 場 所：十勝川十勝大橋上流左岸～途別川合流点下流部右岸
- 活動内容：十勝川中流部川づくり案 9つの論点箇所の現地見学

川づくり平面図





集合写真



帯広河川事務所 永木計画係長の挨拶

現地見学 1：十勝川十勝大橋上流左岸

平成 25 年から帯広農業高校の農業クラブ 十勝川中流部川づくり班と、草地環境の形成に向けた活動を行って来た箇所です。

今年は帯広工業高校環境土木科 2 年生と、ヤナギ実生の剪定とクサヨシの播種、そして当事務局によるヤナギ類の伐採を行いました。



帯工 2 年生がクサヨシを播種した箇所



ヤナギの実生を確認している状況



播種したクサヨシの発芽状況



十中協がヤナギ類の伐採をした箇所

現地見学2：音更川合流点下流部（左右岸）

平水位掘削と保全樹林帯（10m）を除く河畔林を伐採した箇所です。現在、ヤナギの実生を多く確認し、今後の維持管理や新たな施策を検討しなければなりません。



永木係長からの説明



現地確認の様子



十勝川上流方向



十勝川下流方向

現地見学3：相生中島上流右岸（上流湿地）

再樹林化の抑制として湿地環境を形成した箇所です。掘削工事以後、帯広農業高校の農業クラブ十勝川中流部川づくり班と共に、魚類調査とヤナギの抑制追跡調査を行っています。



現地確認の様子



上流側から下流方向の様子

見学箇所 4：相生中島上流左岸

左岸の河岸河畔林の連続性に配慮し平水位掘削を行った箇所です。平水位掘削を行った箇所の現在は、出水の影響により土砂堆積による中州ができています。中州のヤナギ類再樹林化及び河岸河畔林の連続性については、継続して監視する予定です。



現地確認の様子



河岸河畔林の連続性箇所



土砂堆積による中州（左：平水位掘削箇所の上流方向／右：平水位掘削箇所の下流方向）

見学箇所 5 : メン川合流点下流部

サケの稚魚の放流を考慮しメン川沿いの河畔林を保全しつつ河道の平水位掘削を行った箇所です。平成 28 年の洪水によりメン川沿いの河畔林は流出しました。メン川下流部の右岸高水敷は、平均年最大水位で掘削した箇所、現在はヤナギの実生が密集する所と裸地になっている所が点在しています。



右岸高水敷の平均年最大水位の掘削箇所（左：下流方向／右：上流方向）



右岸高水敷の平均年最大水位の掘削箇所（左：下流方向／右：河道方向）

見学箇所 6 : 途別川合流点下流部右岸

平成 25 年から帯広工業高校環境土木科の生徒と草地環境の形成をしてきた箇所で、元の水域環境を保全しつつ右岸高水敷を平均年最大水位で掘削した所です。

平成 28 年の洪水の影響で保全対象であった水域環境とその背後の草地環境が全て流出し、尚且つ、現況河岸の低水護岸も被災して本川の水が流れ込んでいる状況です。



低水護岸の被災箇所



途別川合流点下流部の上流側



水域環境遭った箇所



途別川合流点下流部の最下流側



十勝川本川と繋がり池状態になった箇所



現地見学会終了時の様子



現地確認の様子